

自施設にできること

～スムーズに入院に移行できた事例～

社会福祉法人 光誠会
特別養護老人ホーム ひかり苑

○野口 栄亮 室 陽輔 西川 直樹

【施設紹介】



特別養護老人ホーム

ひかり苑

社会福祉法人 光誠会



地域に貢献できる施設を目指します。

【ひかり苑 体制】

フロア名	利用者数	介護職員			
		早出	日勤	遅出	夜勤
ひまわり	27名	2人	1~3人	1人	1人
もみじ	34名	2人	1~3人	1人	1人
さくら	16名	2人	1~2人	1人	1人
すいせん	21名	2人	1~2人	1人	1人
	合計 98名				
(全体：ショートステイ 8名含む)					

診療所 (看護職員) 3~5人 1人
 (オンコール対応)

※宿直者 1人 (救急対応等行う)

救急対応マニュアルの紹介

- * 日中、夜間のマニュアル
- * 緊急ファイルの紹介



番号	作業項目	作業内容	その他
1	特変	<ul style="list-style-type: none"> ・状態観察。 ・特変者の状態把握。 ※状態により、即119に連絡。	<ul style="list-style-type: none"> ・日中、状態不良者がいれば、看護師より指示確認。 ・体調不良時には、事前に家人連絡を行い、状態報告を行った上で必ず連絡が繋がるよう伝える。
2	様子観察	<ul style="list-style-type: none"> ・処置後の経過観察。 ・状態の把握に努める。 ・掛かりつけ医を把握。 	
3	救急要請	<ul style="list-style-type: none"> ・119に連絡。 ・事務職員に新館、旧館のどちらのエレベーターを使用するか、声を掛けておく。 ・家人へ連絡時、状態報告、搬送先、延命措置の有無も確認。 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師は、個人カルテ・保険証を用意する。 ・家人・上司に連絡。 ・掛かりつけ医は何処かを説明。
4	救急隊到着	<ul style="list-style-type: none"> ・状態を報告する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事務職員は、救急隊員の誘導を行う。
5	搬送	<ul style="list-style-type: none"> ・救急隊員による搬送。 ・使用物品の片付け。 ・付き添いは、受診担当の看護師が行う。 ・搬送先が確定すれば、同行者から家人へ連絡 ・家人到着まで、同行者が付き添う。 	
<div style="border: 2px solid red; padding: 5px; display: inline-block; color: red; font-weight: bold;">救急対応マニュアル(日中)</div>			
6	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・病院にて家人と引継ぎ、帰苑。 ・家人引継ぎし、同行者は事務職員に送迎の連絡し、帰苑。 	
7	連絡	<ul style="list-style-type: none"> ・付き添いの看護師から受診結果の報告を受ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入院になれば、看護サマリー、嚥下パス、内服薬の準備。 ・看護サマリーは持参もしくはFAX。
8	記録	<ul style="list-style-type: none"> ・特変の経過～受診結果までを業務日誌に記録する。 ・個人カルテに記載。 ・受診結果をPCにてドクターに報告。 ・次回受診があれば受診日を予定表・白板に記載。 	

番号	作業項目	作業内容	その他
1	特変	<ul style="list-style-type: none"> ・状態観察。 ・特変者の状態把握。 ・宿直者へ連絡。 ※状態により、即119に連絡。	<ul style="list-style-type: none"> ・日中、状態不良者がいれば、看護師より指示確認。 ・体調不良時には、事前に家人連絡を行い、状態報告を行った上で必ず連絡が繋がるよう伝える。
2	様子観察	<ul style="list-style-type: none"> ・処置後の経過観察。 ・状態の把握に努める。 ・掛かりつけ医を把握。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家人へ都度最新の状態を報告。
3	救急要請	<ul style="list-style-type: none"> ・119に連絡。 ・介護明細と緊急ファイルをプリントアウトする。 ・宿直者に新館、旧館のどちらのエレベーターを使用するか、声を掛けておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・宿直者は、個人カルテ・保険証を用意する。 ・家人や上司に連絡し、玄関を開錠する。 ・天佳苑宿直に救急要請報告。 ・掛かりつけ医は何処か報告。
4	救急隊到着	<ul style="list-style-type: none"> ・状態を報告する。 ・救急隊より延命治療の確認をする場合、家族と救急隊との話し合いしてもらう事 	<ul style="list-style-type: none"> ・宿直者は、救急隊員の誘導を行う。
5	搬送	<ul style="list-style-type: none"> ・救急隊員による搬送。 ・使用物品の片付け。 ※付き添いは、基本的に宿直者が行う。 搬送先が確定すれば、宿直者から家人へ連絡する。	<ul style="list-style-type: none"> ・搬送特養職員にて、施設。各持ち場に戻る。 ・家人到着まで、宿直者が付き添う。 ・各職員は宿直者帰苑まで外線電話対応。 ・家人引継ぎし、宿直者は天佳苑宿直に送迎の連絡し、帰苑。
6	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・病院にて家人と引継ぎ、帰苑。 	
7	連絡	<ul style="list-style-type: none"> ・付き添いの看護師から受診結果の報告を受ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入院になれば、看護サマリー、嚥下パス、内服薬の準備。 ・看護サマリーは持参もしくはFAXする
8	記録	<ul style="list-style-type: none"> ・特変の経過～受診結果までを業務日誌に記録する。 ・個人カルテに記載。 ・受診結果をPCにてドクターに報告。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次回受診があれば受診日を予定表・白板に記載。

救急対応マニュアル(夜間)

氏名 _____ 性別 女 感染症 無 有 不明

昭和 ____年 ____月 ____日生 入苑日 20____年 ____月 ____日

介護度区分 要介護5 認定有効期間 2025/03/31

延命処置意思確認

希望する 意志未確認
 希望しない

2021/04/01現在の意思であり、現時点での意思再確認が必要です

最終接種日	回数	種類
2023/12/03	6	コミュニティ(1価:XBB.1.5)
2023/05/21	5	コミュニティ(2価:BA.1)

氏名 _____ 続柄 _____ 住所 _____ 電話番号 _____

緊急連絡先

以下にはレセプト病名を含む事があるので注意

現病歴 (主)骨髄性貧血 手術後、高コレステロール血症 便秘症 ビタミンB12欠乏症

現在の身体状況

食事内容 脂質異常症食 主食：ミキサー粥 副食：ミキサー水
 分トロミ 全介助 自歯のみ 含嗽不可
 移乗 全介助 リクライニング車椅子使用
 排泄 オムツ交換
 意思疎通困難 発語なし 指示動作不可
 アレルギーなし ★薬剤タゾピベ、ゾシン禁

緊急ファイル

投薬内容 2024/09/08

薬剤変更

1) _____ 錠25mg 4T 分2
 朝夕食後 _____ 1本 (乾燥皮膚部に適宜塗布)
 2) _____ 頓用(便秘時) 5回
 3) _____) 1T 著明便秘時頓用
 4) _____ (臀部に1日2回適宜塗布)
 5) _____ 20g) 1本 (湿疹部に1日2回適宜塗布)

既往歴

_____ 症
 _____ 症

★薬剤タゾピベ ピペラシリンナトリウム(ゾシン) 禁!!

入院歴など R6年3/8~3/22 肺炎 薬剤性血小板減少 ビタミンB12欠乏症
 _____ 院
 R5年12/8~R6年3/4 肺炎 _____ 院
 R2年12/1~R3年1/7 左大腿骨頸部骨折 整形外科の整復固定術 _____ 院
 院) →1/7~3/4 リハビリ目的で退院 _____ 院

*受診希望 ① _____ 院
 ② _____ 院
 ③ _____ 院

他院の投薬

ケース紹介

- *90歳台 女性
- *要介護 4
- *3か月前に入所
- *「私は死ぬまでトイレで排泄したい」



経過

- *令和6年10月21日（月）
左鼠径部と腰痛の訴えあり
食欲不振
- *10月28日（月） 食欲不振のためA病院入院
- *11月 1日（金） 退院
- *11月 6日（水） 左腰部、鼠径部の痛み持続
食事をほぼ摂取しなくなった
カンファレンス開催
- * 11月 7日（水） 受診 入院



入院後

- * 坐骨、恥骨、腸骨骨折と診断
- * 現在は退院、入所に向けて調整中



結果

- * 多職種でカンファレンスを実施し受診の判断をした
- * カンファレンスの結果や日頃の経過を家族にも共有することで、母親を心配し来所もありスタッフとのコミュニケーションもとり入院時もすぐに駆けつけてくれた
- * 救急車を利用せずに受診ができた
- * 病院の診察時間内に判断ができた
- * 現在は、最後までトイレを使用したいという本人の意思をかなえることができるようにカンファレンスを開催し検討中



まとめ

- * 看取り支援は臨終の場面(点)だけではなく経過(線)である。
- * 利用者とともにいる時間を有効に生かしその人の大切にしたいことを確認する等の関係づくりも看取り支援である。
このことをスタッフにも共有していきたい。
- * 関係者様を含む地域の方々に自施設の方針(限界)を理解していただき、今後も連携を絶やさず、利用者が笑顔で過ごせる環境を提供していきたい。



ご清聴ありがとうございました